

# 自治会活動に関するアンケート結果

## 1. 目的

協働によるまちづくりを推進していく上で、総合計画の策定やパートナーシップ条例(仮称)制定に向けての基礎資料とするため、地域でのまちづくり活動の中核を担う自治会(大字区)の区長の協力を得て、自治会の活動状況や課題を調査するもの。

## 2. 内容

- (1) 調査対象：あま市内の各大字区(43 団体)
- (2) 調査方法：区長会議にて依頼し、郵送にて返送
- (3) 調査期間：平成 23 年 5 月 31 日～6 月 30 日

## 3. 調査項目

- (1) 自治会の活動について
- (2) 他の団体と連携して行う活動について
- (3) 協働によるまちづくりについて

## 4. 回収結果

配布数：43 団体  
回収数：43 団体  
回収率：100%

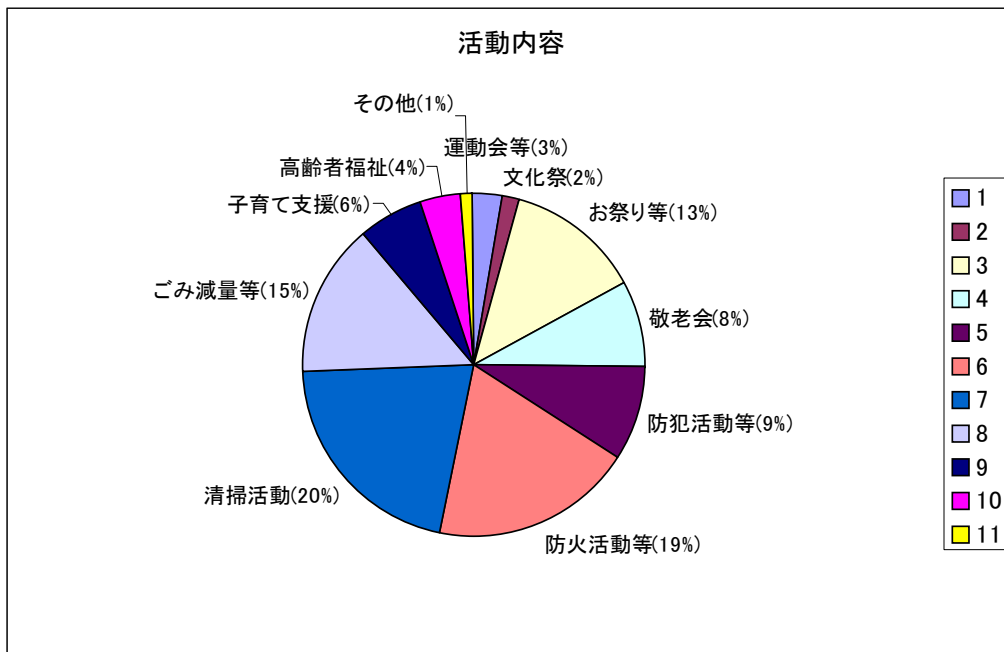
## I. 貴自治会の活動について

(1) 現在、貴自治会が行っている活動をすべて選び、番号に○をつけてください。

回 答	件 数	構成比
1. 運動会、スポーツ大会	5	3%
2. 文化祭	3	2%
3. お祭り、盆踊り	23	13%
4. 敬老会	15	8%
5. 防犯活動・パトロール	16	9%
6. 防火・防災活動	34	19%
7. 清掃等の美化活動	38	20%
8. ごみの減量・再資源化	27	15%
9. 子育て支援活動	11	6%
10. 高齢者福祉活動	7	4%
11. その他	2	1%

【「その他」の具体的内容】

- ・菊花展
- ・日本赤十字社などの募金活動



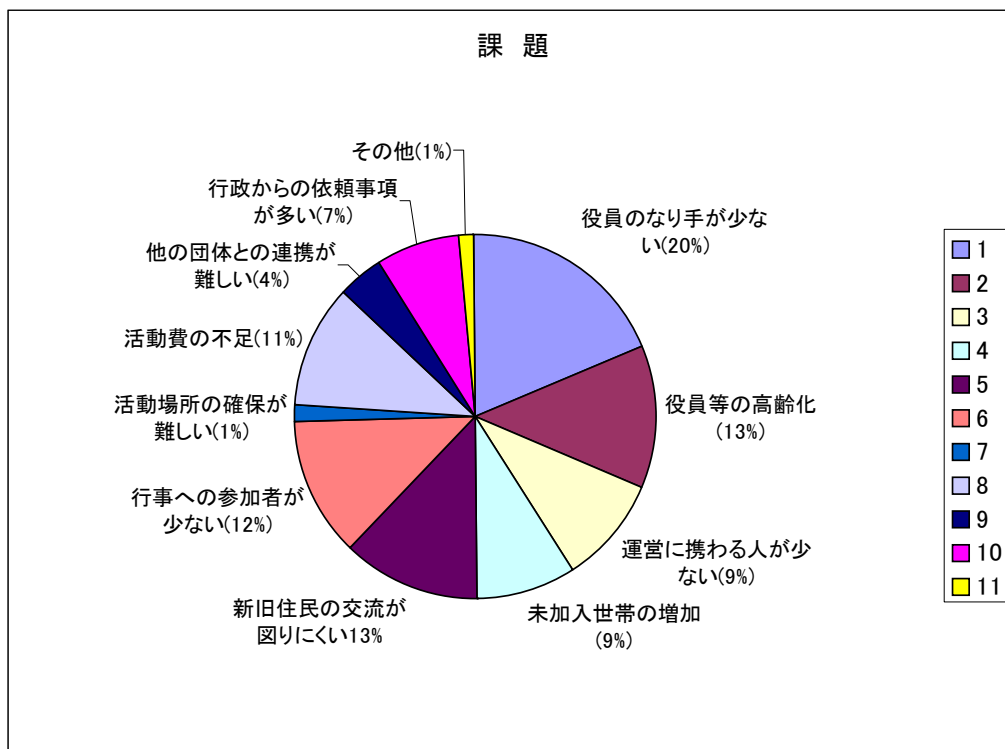
各自治会で行っている活動数は、平均で4.3事業であり、「清掃等の美化活動」、「防火・防災活動」、「ごみの減量・再資源化」に取り組んでいる自治会が多い。また、「お祭り、盆踊り」といった地域コミュニティを促進する活動も行われている。

(2) 貴自治会の活動や運営にあたって課題となっているものをすべて選び、番号に○を付けてください。

回 答	件 数	構成比
1. 役員のなり手が少ない	26	20%
2. 役員・会員の高齢化	17	13%
3. 運営に携わる人が少ない	13	9%
4. 未加入世帯の増加	12	9%
5. 新旧住民の交流が図りにくい	17	13%
6. 行事への参加者が少ない	17	12%
7. 活動場所の確保が難しい	2	1%
8. 活動費の不足	15	11%
9. 他の団体との連携が難しい	6	4%
10. 行政からの依頼事項が多い	10	7%
11. その他	2	1%

【「その他」の具体的内容】

- ・ 区長(3名)、字役員とも単年度任期のため、過去の経緯、問題点が判らず、前例踏襲となる場合が多い。区長については、1名程度が複数年(副区長等の立場で)就任し、区行政の連続性を確保することが望ましい。
- ・ 勤労者世帯の増加、意識や考え方の違い



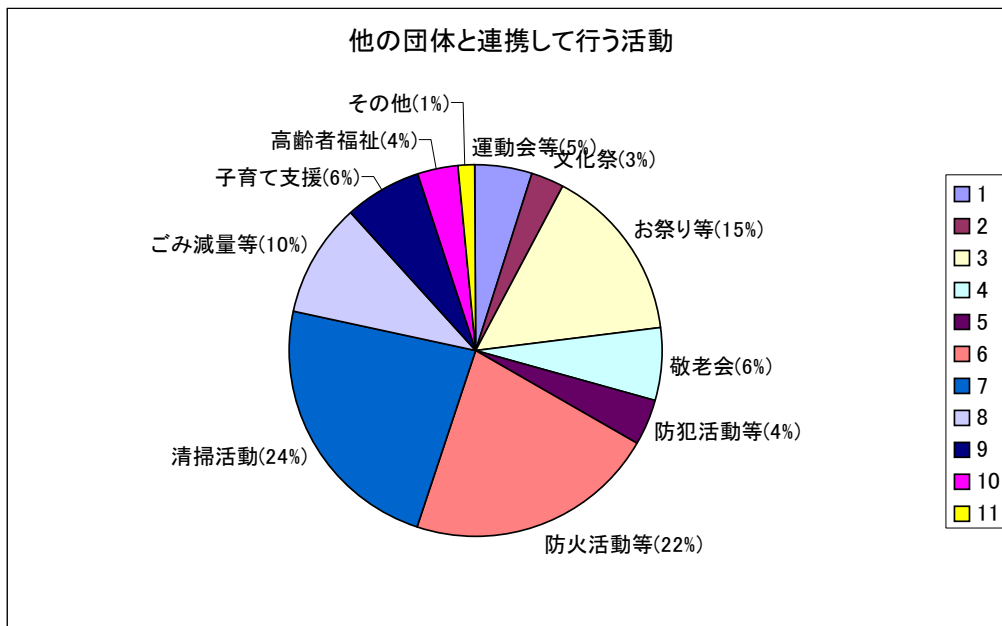
活動や運営にあたっての課題としては、「役員のみ手が少ない」、「役員・会員の高齢化」など、組織の人的課題が挙げられている。また、「新旧住民の交流が図りにくい」、「行事への参加者が少ない」など、人口流入の増加による住民意識に関する課題が挙げられている。

## Ⅱ. 他の団体と連携して行う活動について

※「他の団体」とは、近隣の自治会、ボランティア団体・NPO、事業所、子ども会、老人クラブ、学校、社会福祉協議会及び市役所などを指します。

(1) 上記でお答えいただきましたⅠ-(1)の活動のうち、他の団体と連携・協力して行っている活動がございましたら、その連携先の団体名を記入してください。

回 答	件数	構成比	主な連携先
1. 運動会、スポーツ大会	4	5%	子ども会
2. 文化祭	2	3%	文化活動団体
3. お祭り、盆踊り	12	15%	子ども会、婦人会
4. 敬老会	5	6%	老人クラブ
5. 防犯活動・パトロール	3	4%	老人クラブ
6. 防火・防災活動	17	22%	消防団、市役所、海部東部消防署
7. 清掃等の美化活動	18	24%	老人クラブ、市役所
8. ごみの減量・再資源化	8	10%	子ども会、老人クラブ、市役所
9. 子育て支援活動	5	6%	子ども会
10. 高齢者福祉活動	3	4%	老人クラブ
11. その他	1	1%	社会福祉協議会



自治会でやっている活動のうち、他の団体と連携して行っている活動は、「清掃等の美化活動」、「防火・防災活動」が多く、主に行政と連携して活動を行っている。また、全般的に活動の連携先としては、地元の子ども会や老人クラブが多く挙げられている。

**(2) 他の団体と連携・協力して活動を実施する中で、効果的であったこと、課題となっていることなどがございましたら、自由にご記入ください。**

**【効果的であったこと】**

- ・内容のレベルアップが図れる。
- ・連携・協力がうまくいっているので、このまま進めたい。
- ・旧町の時から行政の協力を得ながらふれあい祭りを実施してきた。まちおこしの一環として、子どもからお年寄りまで共に手を取り合って、地域を元気にしていく協働事業です。他の地域でも、こうしたまちおこしを実施してほしい。

**【課題となっていること】**

- ・参加者が同じ人である。
- ・団体に依頼して実施するときは参加者が多いが、区全体に広報して実施するときは参加者が少ない。
- ・他の団体と連携・協力して作業等を実施する場合、お弁当・お茶などの条件を統一する必要がある。
- ・一般住民の参加が少ない。
- ・連携する団体の参加者はあるが、どうしても一般の住民の参加が十分でない場合が多い。

**【その他】**

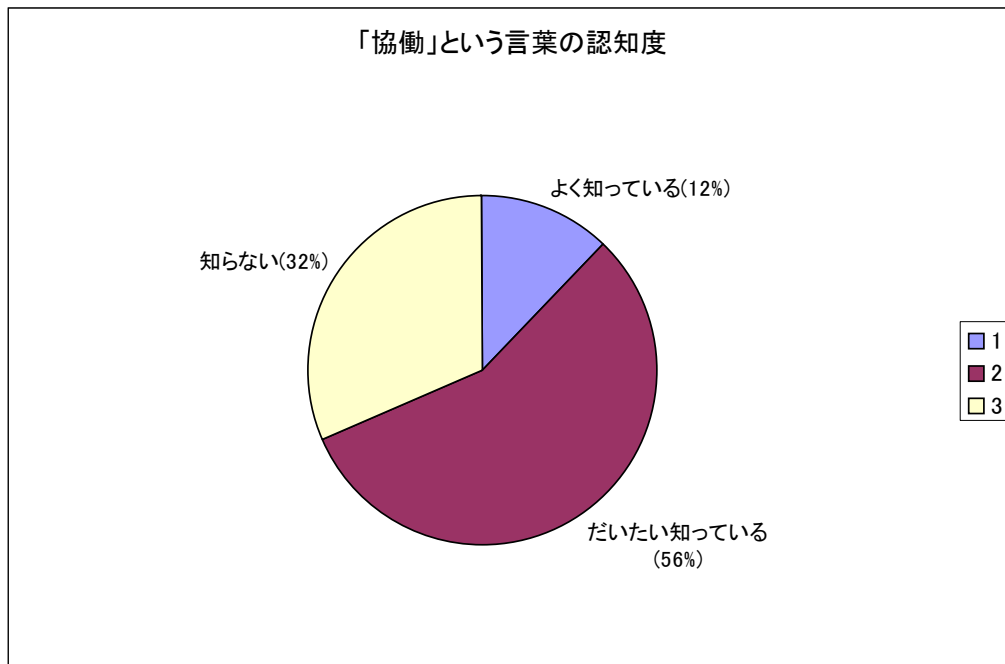
- ・現在の経済情勢、少子高齢化による人口構成のアンバランス化等のより、青壮年層の地域活動への参加は非常に難しくなっている。また、高齢化の進展と核家族化による老人の独居世帯の増加(65歳以上の老人夫婦世帯を含む)現象は、この面からも地域活動への参加者数を減少させる要因となっている。今後は文化祭等の地域活動はもちろん、地域行政に関してもブロック化が避けられないと思われる。
- ・大字区の住民全員の参加を望むが、子ども会等が協力してくださるので、コミュニティのメンバー中心に活動している。
- ・防災訓練に際して、啓発するも参加者が少なく、毎年同じようなことをしているようで、こんな時節なので、もっと新しい情報、方法を指導してほしい。

### Ⅲ. 協働によるまちづくりについて

(1) 「協働」という言葉をご存知ですか。該当する番号に○をつけてください。

※「協働」とは、「複数の主体が、同じ目標を共有し、ともに力を合わせて活動すること」をいう。

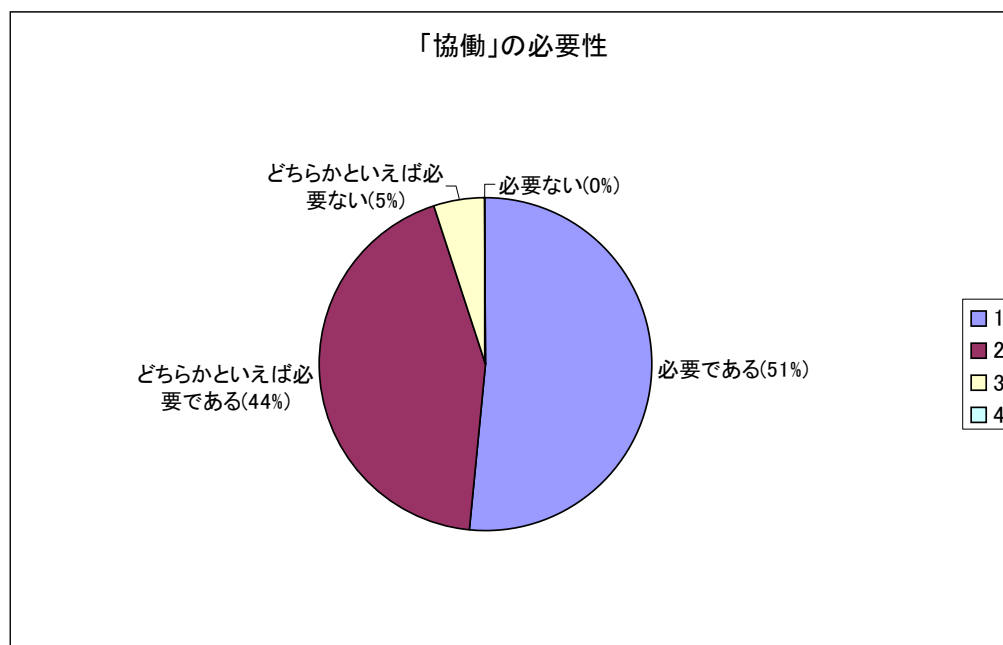
回 答	件 数	構成比
1. よく知っている	5	12%
2. だいたい知っている	23	56%
3. 知らない	13	32%



「協働」という言葉について、「よく知っている」、「だいたい知っている」をあわせると、約7割の方が「知っている」と答えている。

(2) まちづくりを進めていく上で、「協働」という方法が必要だと思いますか。  
該当する番号に○をつけてください。

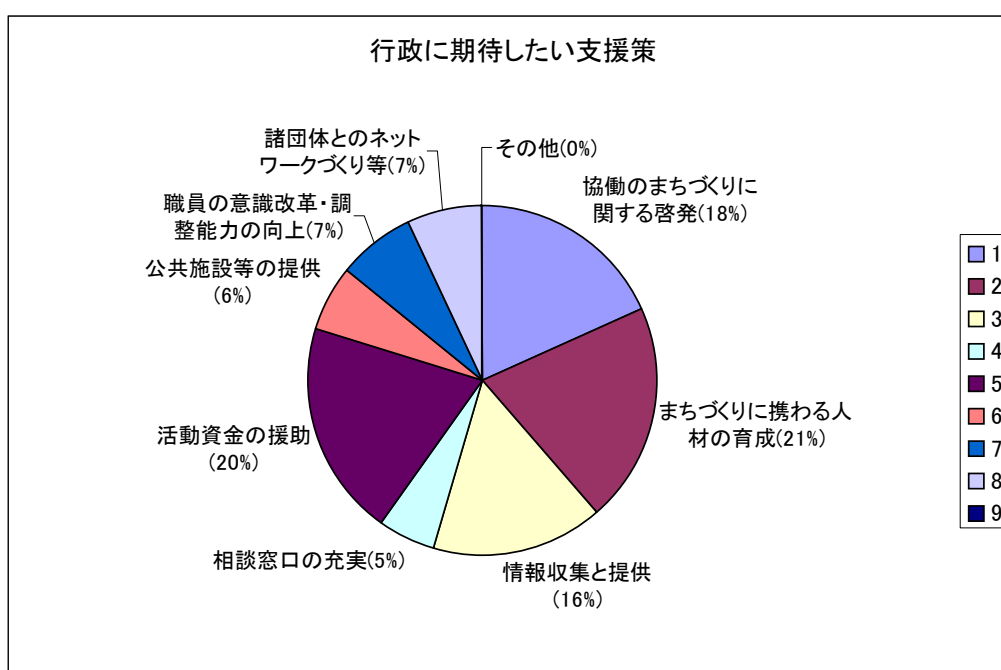
回 答	件 数	構成比
1. 必要である	20	51%
2. どちらかといえば必要である	17	44%
3. どちらかといえば必要ない	2	5%
4. 必要ない	0	0%



まちづくりを進めていく上で、協働が「必要である」、「どちらかといえば必要である」をあわせると、95パーセントの方が必要だと答えている。

(3) 「協働によるまちづくり」を進めていく上で、行政に期待したい支援策を上位3つまで選び、番号に○をつけてください。

回 答	件 数	構成比
1. 協働のまちづくりに関する啓発	21	18%
2. まちづくりに携わる人材の育成	23	21%
3. 市民活動に関する情報収集と提供	18	16%
4. 市民活動に関する相談窓口の充実	6	5%
5. 活動資金の援助	23	20%
6. 公共施設・場所の提供	7	6%
7. 職員の意識改革・調整能力の向上	8	7%
8. 諸団体とのネットワークづくり・橋渡し役	8	7%
9. その他	0	0%



行政に期待する支援策については、「まちづくりに携わる人材の育成」、「活動資金の援助」が最も多い。次いで、「協働のまちづくりに関する啓発」、「市民活動に関する情報収集と提供」が上位に挙げられており、この4項目で全体の75パーセントを占めている。



(4) 「協働によるまちづくり」を効果的に推進するための仕組みや手法などについて、ご意見・ご提案がございましたら、自由にご記入ください。

- ・社会の第一線から離れた60歳代(特に60代の中間世代)では、社会への貢献に意欲の高い人が多い。こうした世代(63~70歳程度)を積極的に組織化できたら効果は大きいと思う。
- ・若い人材が少ないため、高齢者がほとんど実施することになるため、あまりハードな活動は困難と思うので、活動についての配慮をされたい。
- ・他の地区と同じ悩みでしょうが、住宅、旧部落、マンション等の連絡が少なく、資源ごみの時に顔をあわせる程度で難しい。大都市近郊の悩みではないでしょうか。
- ・市民が気軽に自由参加する行事が定期的実施されれば、市民全体の融和が深まる気がする。
- ・「協働」の言葉は初めて聞いた。
- ・「協働」がわからない。
- ・大字独自の活動でさえ年間運営は非常に難しく、他団体と共有・協働で事業を推進していくには現時点では時期尚早かと思う。したがって今後、協働のまちづくりの推進を図っていくには、市当局が予算面を含め活動方針等に積極的な姿勢で臨むことが必要かと思う。
- ・もっと具体的な話をしないと、全く方法がわからない。その上での情報を伝達してほしい。
- ・具体的に何を目標として、どう推進していくかを住民全体が十分把握することが第一である。
- ・自分の住んでいるまちは、自分たちで住みやすいまちへと創っていく、そうした視点こそが協働によるまちづくりだと考える。今後においても、行政主導によるトップダウン方式ではなく、市民の参加を促す方式へと変えていく、職員の意識も変えていくことが何より求められていると思う。
- ・すべてにおいて、行政や町内会からのサービスは求めるが、自己負担はしたくないという気持ちが強くなってきているように思う。
- ・これまでの「安全・安心のまちづくり」ということと、今回の「協働によるまちづくり」とが、どのような関係、結びつきになるのか。
- ・「協働」は、一時言われた「共助」とどのような類似性と相違性があるか。また「公助」、「自助」との関係、位置づけはどうか。